

広島城

広島城には、16 世紀後半まで遡る歴史があります。最終的に広島を市へと育てたきっかけとなるその要塞は、毛利輝元（1553～1625）によって設置されました。毛利は当時、この地域の大半を治めた有力武将です。建築と防御の両方が比較的容易なために、太田川三角州の平地が城の建造場所として選ばれました。

頑丈な石壁、天守閣、三重の堀（残存するのはそのうち 1 つのみ）を持つ広島城は、1589 年から 1599 年の間に建設されました。その頂上には堂々とした天守閣が立ち、同時に城下町が設立されました。輝元は 1591 年からここを本拠地とし、今日の広島県、島根県、山口県、そして岡山県と鳥取県の一部を構成する 9 つの地方を統治しました。この要塞には、「鯉城（りじょう）」の別名が付けられています。

1600 年の関ヶ原の戦いは、1867 年まで徳川幕府の下に日本を統一する鍵となりました。輝元が彼の建てた城からの退去を余儀なくされたのは、合戦の後です。その次には、安芸と備後の大名として福島正則（1561～1624）が広島城に入りました。しかし 1619 年、幕府の許可を得ることなく洪水による城の損害を修繕したために、彼は改易されました。その後は、徳川統治の終わりと封建制度の廃止まで、浅野家が 12 代に渡ってこの城から当地を治めました。そして広島城は、日本帝国軍施設となります。1931 年には、最初天守閣が国宝に指定されました。

第二次世界大戦の終わりに向け、連合国侵略を見越してここには軍隊が駐屯しました。1945 年 8 月 6 日、原爆によって城は倒壊しました。調査では、低層部の柱が爆風によって破壊され、残りの構造を崩す原因になったのではとされています。現在では、木製の元の天守閣の代わりにコンクリート製の天守閣が復元され、そこは明治時代（1868～1912）以前の広島史の遺物を主に展示する博覧会の会場となっています。復元が完成したのは、1958 年のことです。ですが城壁内には今も、原爆を生き残った 3 本の木が残されています。